

チェック対象	← 製品、事業、工場、会社など、チェック対象を明記のこと				評価結果	回答欄	備考(N/Aの理由や評価条件など)
ステージ	定義	No.	評価項目				
設計	製品・工事の仕様を決定する行為	1	設計図書・仕様書に対し生物多様性に配慮していることを客観的に確認できるチェック体制があるか。		5 社内・社外にチェック体制が存在する。		
					4 社内または社外どちらかにチェック体制が存在する。		
					3 チェック体制は存在しないが、設計部門以外(環境部門など)の人間に確認している。		
					2 今後チェック体制を整備する計画である。( 年 月頃)		
2	設計図書・仕様書において生物多様性の評価を客観的、科学的または定量的 <sup>※</sup> に実施しているか。 ※CASBEE、SEGES、LIME等に準ずる定量評価手法		5 必要な製品・サービス全てに対し定量評価を実施している。				
			4 必要な製品・サービスの過半数に対し定量評価を実施している。				
			3 必要な製品・サービスの一部に対し定量評価を実施している。				
			2 今後実施する計画である。( 年 月頃)				
3	全てのライフサイクルステージについて生物多様性に配慮した設計図書・仕様書となっているか。		5 必要な全ての製品について、全ライフサイクルステージに対し配慮している。				
			4 必要な全ての製品について、一部のライフサイクルステージに対し配慮している。				
			3 必要な一部の製品については、全ライフサイクルステージに対し配慮している。				
			2 必要な一部の製品については、一部のライフサイクルステージに対し配慮している。				
4	生物多様性に配慮した研究開発 <sup>※</sup> を実施しているか。 ※生態系への影響の少ない素材・技術開発(再生・再利用が容易な素材等、非食バイオブラント等)		5 すべての研究開発案件において実施している。				
			4 過半数の研究開発案件において実施している。				
			3 一部の研究開発案件において実施している。				
			2 今後実施を計画している。( 年 月頃)				
調達	製品、サービス、システムを提供する上で調達する資源および資材。治工具やユーティリティ、緑化用動植物も含む。また、仮設物の原材料なども含む。	5	調達する生物資源等の原材料について、法律等を順守しているか ※外来生物法、鳥獣保護法、カルタヘナ法等の国内法、及びワシントン条約、ラムサール条約等の国際条約、世界各国の希少種・絶滅危惧種保護、外来生物、遺伝子組み換え生物に関連する法令等		5 順守評価の仕組み、体制が整っており、順守できている。 (軽微な違反を含め、過去10年間違反ゼロ)		
					4 順守評価の仕組み、体制が整っており、順守できている。 (軽微な違反を含め、過去3年間違反ゼロ)		
					3 順守評価の仕組み、体制が整っており、順守状況を把握している。		
					2 順守評価の仕組み、体制を整備中である ( 年 月頃)		
		6	サプライヤーからの生物多様性への影響に関する情報(原材料の原産地情報や認証取得状況)を収集・把握しているか。		5 方針・基準に基づいて、必要な全てのサプライヤーから収集し、把握している。		
					4 方針・基準に基づいて、必要な一部のサプライヤーから収集し、把握している。		
					3 収集/把握の比率 50%以上: 調達金額、調達重量、サプライヤ数のいずれかで算出		
					2 必要な一部のサプライヤーから収集し、把握している。		
		7	生物多様性への影響が少ない材料を使った部品を調達しているか。		5 調達基準に基づいて、必要とされた部材の全てを選定している。		
					4 比率 選定基準にて必要とされた部材の50%以上: 調達金額、調達重量、サプライヤ数のいずれかで算出		
					3 選定基準に基づいて、必要とされた一部の部材について選定している。		
					2 選定基準を整備中である ( 年 月頃)		
		8	(調達品に関して、特定のサプライヤーしか存在しない場合) サプライヤーに対して生物多様性への配慮について指導・要請を実施しているか。		5 方針・基準に基づいて、必要な全てのサプライヤーに対して実施している。		
					4 方針・基準に基づいて、必要な過半数のサプライヤーに対して実施している。		
					3 方針・基準に基づいて、必要な一部のサプライヤーに対して実施している。		
					2 実施していないが、今後の実施に向けて検討中である ( 年 月頃)		
9	生物資源等の調達においては、そこから得られる利益の配分について、ABS <sup>*</sup> として相手先国と適切な取り決めを行っているか。 *ABS: Access and Benefit Sharing (遺伝資源の利用から生ずる利益の公正で衡平な配分)		5 対応を要する全ての調達案件について、適切に対処するよう指導し、実績を管理している。				
			4 対応を要する過半数の調達案件について、適切に対処するよう指導し、実績を管理している。				
			3 対応を要する一部の調達案件について、適切に対処するよう指導している。				
			2 対応を要する調達案件の選定はできているが、適切な対処の指導について検討中である。 ( 年 月頃)				
				1 対応を要する調達案件が選定できておらず、適切な対処について指導していない。			

(※1)本チェックシートの転載・引用においては、引用元を明記すること。(引用元:産業競争力懇談会COCN)

(※2)評価結果の文中にある「必要な」とあるものは、「企業として自主的に行ったほうが良いと判断するもの」である。

ステージ	定義	No.	評価項目	評価結果	回答欄	備考(N/Aの理由や評価条件など)
製造	原材料を用いて製品・サービスを作り出す過程。また試験検査に関する作業。外注する場合は製造・検査仕様の確認・許可。(ガス・化学物質・水の使用や廃棄物・排水などはこの工程に含める)	10	工場周辺環境へのインパクトを最小化する規制(環境法)を順守し、周辺地域への影響を抑制した事業活動に努めているか。	5 環境法規制を把握した上で、これを上回る自主基準を設けて順守している。 (軽微な違反を含め、過去10年間で違反ゼロ)		
				4 環境法規制を把握した上で、これを上回る自主基準を設けて順守している。 (軽微な違反を含め、過去3年間で違反ゼロ)		
				3 順守評価の仕組み、体制が整っており、順守状況を把握している。		
				2 順守評価の仕組み、体制を整備中である( 年 月頃)		
				1 順守評価の仕組み、体制が無い。		
		11	事業活動で用いる化学物質のリスク低減に努めているか。 (リスク:使用量、排出量、有害性)	5 化学物質の使用量と排出量の削減を実施している。		
				4 化学物質の使用量と排出量を把握している。		
				3 化学物質の使用量と有害性を把握している。		
				2 化学物質の使用量の把握を計画している( 年 月頃)		
				1 化学物質の使用量を把握していない。		
		12	再生可能エネルギー(*)の導入・利用に努めているか。 * 太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマス	5 《再生可能エネルギー利用率(再生可能エネルギー利用量/全エネルギー利用量)を評価》 再生可能エネルギーの利用率が10%以上		
				4 再生可能エネルギーの利用率が10%未満。		
				3 利用しているが利用率は把握していない。		
				2 利用を検討している。		
				1 利用していない。		
13	水の使用量を抑制・削減しているか。	5 受水量の削減目標を掲げて取り組んでいる。				
		4 受水量の削減に取り組んでいる。				
		3 受水量を定期的に把握している。				
		2 受水量の定期的把握を検討している。				
		1 受水量を把握していない。				
14	製造過程における温暖化ガス低減に努めているか。 (生産高原単位で評価のこと)	5 全ての過程において低減できている。				
		4 過半数の過程において低減できている。				
		3 一部の過程において低減できているものの、悪化している過程もある。				
		2 低減に向けて計画的に取り組んでいるが、どれも低減に至っていない。				
		1 低減に向けた取り組みは計画的に行っていない。				
15	環境基準および排水先の環境情報*を踏まえた上で、排水による事業所周辺への影響低減(周辺生態系に適合した排水量、排水温度に配慮)に努めているか。 *排水先(河川、海洋など)や排水先の環境基準、生態系の保全状況など	5 環境基準(水質)を満足し、常に排水量、排水温度に配慮している。				
		4 環境基準(水質)を満足し、定期的に排水量、排水温度に配慮している。				
		3 環境基準(水質)を満足し、排水量に配慮している。				
		2 環境基準(水質)を満足している。				
		1 排水において環境基準(水質)への配慮を計画している( 年 月頃)				
16	製造工程における排出物(廃棄物)の削減/再利用/再資源化を促進しているか。	5 可能な全ての廃棄物について削減、再利用、再資源化を促進している。				
		4 可能な過半数の廃棄物について削減、再利用、再資源化を促進している。				
		3 可能な一部の廃棄物について削減、再利用、再資源化を促進している。				
		2 廃棄物の量を把握している。				
		1 廃棄物の量を把握していない。				
輸送	製品の輸送、お客様への納入、及び販売に関わる活動	17	輸送における環境負荷低減に努めているか。 (輸送ルートの見直し、共同輸送、積載効率向上、出荷の標準化、モーダルシフト、低公害車の利用)	5 全ての輸送について環境負荷低減を実施している。		
				4 50%以上の輸送について環境負荷低減を実施している。		
				3 環境負荷の計測、データ蓄積を行っており、一部の輸送について環境負荷低減を実施している。		
				2 環境負荷の計測、データ蓄積を行っていないが、環境負荷低減への取り組みは行っている。		
				1 環境負荷の計測、データ蓄積を行っていない。		
		18	国が定めた特定外来生物やその他侵略的な外来生物の侵入および地域種の運び出しを防ぐ梱包の工夫や輸送形態などの配慮を行っているか。	5 外来種の侵入および地域種の運び出しを防ぐ輸送・梱包規定を全ての輸送について実施しており、全ての輸送で防止を確認している。		
				4 外来種の侵入および地域種の運び出しを防ぐ輸送・梱包規定を全ての輸送について実施しており、一部輸送で防止を確認している。		
				3 外来種の侵入および地域種の運び出しを防ぐ輸送・梱包規定があり、全ての輸送について実施している。		
				2 外来種の侵入および地域種の運び出しを防ぐ梱包規定があり、一部で実施している。		
				1 外来種の侵入および地域種の運び出しを防ぐ輸送・梱包規定はない。		
		19	梱包資材の使用量を削減しているか。	5 全ての梱包について梱包資材の使用量を削減している。		
				4 50%以上の梱包について梱包資材の使用量を削減している。		
				3 梱包資材の使用量を把握しており、一部の梱包について梱包資材の使用量を削減している。		
				2 梱包資材の使用量を把握していないが、削減への取り組みは行っている。		
				1 梱包資材の使用量を把握していない。		

(※1)本チェックシートの転載・引用においては、引用元を明記すること。(引用元:産業競争力懇談会COCN)

(※2)評価結果の文中にある「必要な」とあるものは、「企業として自主的に行ったほうが良いと判断するもの」である。

ステージ	定義	No.	評価項目	評価結果	回答欄	備考(N/Aの理由や評価条件など)	
使用・運用	・製品・サービスの使用および運用 ・定期点検などの保守を含む運営・管理	20	製品・サービスについて、使用・運用時における生物多様性への影響要因を特定し、モニタリング・評価を実施しているか。(モニタリング・評価の対象には、生物多様性に配慮した製品・サービスの選択やライフスタイルへの転換を推進する活動も含まれる。)	5	必要な全製品・サービスにモニタリング・評価を実施している(自社のマネジメントシステム等によって実施が担保されていることが前提)		
				4	必要な半数以上の製品・サービスにモニタリング・評価を実施している(自社のマネジメントシステム等によって実施が担保されていることが前提)		
				3	必要な一部の製品・サービスにモニタリング・評価を実施している。		
				2	モニタリング・評価の実施に向け、製品・サービスの影響要因を特定している。		
				1	実施していない。		
		21	製品・サービスについて、環境負荷低減など、実際の使用・運用における生物多様性への影響を緩和する活動を実施しているか。	5	必要な全製品・サービスについて、実際の使用・運用における定量的影響評価を設計(フィードバック)や影響緩和活動に反映させている(自社のマネジメントシステム等によって実施が担保されていることが前提)		
				4	必要な半数以上の製品・サービスについて、実際の使用・運用における定量的影響評価を設計(フィードバック)や影響緩和活動に反映させている(自社のマネジメントシステム等によって実施が担保されていることが前提)		
				3	必要な一部の製品・サービスについて、実際の使用・運用における影響を定量的に評価している。		
				2	活動の実施に向け、実際の使用・運用における関連情報の収集、定量的影響評価手法の構築を進めている( 年 月頃)		
				1	実施していない。		
		22	製品・サービスについて、実際の生物多様性影響及び配慮を社会に情報公開しているか。	5	必要な全製品・サービスについて、第三者の評価を受けた情報公開を実施している。		
				4	必要な半数以上の製品・サービスについて、第三者の評価を受けた情報公開を実施している。		
3	一部の製品・サービスについて情報公開を実施している。						
2	今は情報公開を実施していないが、実施計画が策定され進行している( 年 月頃)						
1	実施していないが、その必要性を認識している。						
23	製品・サービスについて、市民・NPO・大学・行政等の関係者と協働した使用・運用・管理を実施しているか。	5	製品・サービスの使用・運用・管理について、利害関係者との協働によって社会的しくみを構築した/している。				
		4	製品・サービスの使用・運用・管理について、利害関係者との協働活動が社会的に有益な活動となっている。				
		3	製品・サービスの使用・運用・管理について、利害関係者と協働で生物多様性保全活動している。				
		2	製品・サービスの使用・運用・管理について、利害関係者との交流・情報提供を実施している。				
		1	実施していない。				
廃棄・再利用	製品の解体方法や廃棄方法/再利用	24	使用済み製品の3R(Reduce, Reuse, Recycle)を実施しているか。	5	3Rの実施全ての製品の状況を公開している。		
				4	全ての製品の廃棄に関し3Rを実施している。		
				3	半分以上の製品の廃棄に関し3R実施している		
				2	一部の製品の廃棄に関し3Rを実施している。		
				1	廃棄に関し3Rを実施していない。		
		25	使用済み製品の廃棄時の説明資料を提供しているか。	5	説明資料があり全ての廃棄に適用している。		
				4	説明資料があり50%以上に適用している。		
				3	説明資料はあるが一部のみの適用である。		
				2	説明資料は無いが、今後作成する予定である。( 年 月頃)		
26	製品の廃棄・回収に関しステークホルダーへの説明をしているか。	5	必要な全ての製品で説明を実施している。				
		4	説明を一部の製品マニュアル等で実施している。				
		3	環境報告書で製品回収の実施内容を纏めて説明をしている。				
		2	製品回収の説明の実施はないが、今後説明実施を計画する。( 年 月頃)				
		1	製品回収の説明の実施はない。				

(※1)本チェックシートの転載・引用においては、引用元を明記すること。(引用元:産業競争力懇談会COCN)

(※2)評価結果の文中にある「必要な」とあるものは、「企業として自主的に行ったほうが良いと判断するもの」である。

ステージ	定義	No.	評価項目	評価結果	回答欄	備考(N/Aの理由や評価条件など)
土地利用	事業活動のために自社で運用・管理している土地及び原材料の調達や顧客の利用に供されている土地(周辺の土地、空間、建物を含む)	27	生物多様性/生態系保全に関して、第三者による評価制度、認証制度を活用しているか。	5 第三者による評価制度・認証制度を活用している。		
				4 自己による評価制度を導入している。		
				3 評価制度・認証制度の導入を具体的に計画中である。( 年 月頃)		
				2 評価制度・認証制度の導入を検討中である。		
				1 評価制度・認証制度は導入していない。		
		28	土地利用にあたって、事前に生物多様性に及ぼす影響を把握(アセスメント)しているか。	5 必要な全ての土地利用でアセスメントを実施している。		
				4 必要な過半の土地利用でアセスメントを実施している。		
				3 必要な一部の土地利用でアセスメントを実施している。		
2 アセスメントを実施する仕組みを具体的に計画中である。( 年 月頃)						
1 アセスメントは実施していない。						
29	土地利用にあたって、生物多様性の状況を把握(モニタリング)しているか。	5 必要な全ての土地利用でモニタリングを実施している。				
		4 必要な過半の土地利用でモニタリングを実施している。				
		3 必要な一部の土地利用でモニタリングを実施している。				
		2 モニタリングを実施する仕組みを具体的に計画中である。( 年 月頃)				
		1 モニタリングを実施していない。				
30	土地利用にあたって、生物多様性に影響を与える場合には、その影響を回避する措置を講じているか。	5 必要な全ての土地利用で措置を講じている。				
		4 必要な過半の土地利用で措置を講じている。				
		3 必要な一部の土地利用で措置を講じている。				
		2 措置を講じる仕組みの導入を具体的に計画中である。( 年 月頃)				
		1 措置を講じていない。				
31	絶滅危惧種、希少種、在来種の保護活動等の生物多様性保全活動を行っているか。	5 必要な全ての土地利用で保全活動をしている。				
		4 必要な過半の土地利用で保全活動をしている。				
		3 必要な一部の土地利用で保全活動をしている。				
		2 保全活動の実施を具体的に計画中である。( 年 月頃)				
		1 保全活動を実施していない。				
32	サプライヤーに対して、生物多様性に配慮した土地利用を要請しているか。	5 必要なすべてのサプライヤーに要請している。				
		4 必要な過半のサプライヤーに要請している。				
		3 必要な一部のサプライヤーに要請している。				
		2 要請を計画中である。( 年 月頃)				
		1 要請していない。				
33	生物多様性や生態系サービスの経済価値を算定しているか。	5 算定し、公表している。				
		4 算定している(公表はしていない)。				
		3 算定手法を策定・計画中である。( 年 月頃)				
		2 算定手法の導入を検討中である。				
		1 算定していない。				
34	国が定めた特定外来生物やその他侵略的な外来生物の侵入を防止しているか。	5 必要な全ての土地利用で、特定外来生物、侵略的外来生物の侵入の防止はもちろん、国内外来種や地域固有種以外の生物の持ち込み等についても防止している。				
		4 必要な全ての土地利用で防止している。				
		3 必要な一部の土地利用で防止している。				
		2 侵入防止策を具体的に検討中である。				
		1 防止していない。				

(※1)本チェックシートの転載・引用においては、引用元を明記すること。(引用元:産業競争力懇談会COCN)

(※2)評価結果の文中にある「必要な」とあるものは、「企業として自主的に行ったほうが良いと判断するもの」である。

ステージ	定義	No.	評価項目	評価結果	回答欄	備考(N/Aの理由や評価条件など)	
自然保護	生物多様性保全に関する指針、方針	35	生物多様性保全に関する指針、方針があるか。	5	生物多様性保全指針、あるいは、環境方針等の中の項目に、企業全体の生物多様性保全に関する姿勢や具体的な取り組みに関する指針、方針等が設定されており、単年度及び中長期の具体的な目標も設定され、これら指針・方針、目標が公表されている。		
				4	企業全体の生物多様性保全に関する具体的な取り組み等については明記されていないが、環境方針等の中では生物多様性保全についても触れられている。または、生物多様性への影響が大きいと思われる部署、事業所等のほぼ全てで、生物多様性保全に関する方針や具体的な取り組みについて決められ周知されている。		
				3	一部の部署や事業所等については、生物多様性保全に関する方針や具体的な取り組みについての目標などが決められ周知されている。		
				2	生物多様性保全に関する方針、指針等について検討している。		
				1	生物多様性保全に関する方針、指針等について検討したことはない。		
	生物多様性保全に関する情報の発信	36	生物多様性保全に関する情報を発信しているか。	5	報告書(環境報告書、CSR報告書等含む)やホームページなどに生物多様性保全に関して記載する部分が設定されており、具体的な取組とその効果に関する客観的・定量的な評価を定期的に一般向けに発信している。		
				4	報告書(環境報告書、CSR報告書等含む)やホームページなどに生物多様性保全に関して記載する部分が設定されており、具体的な取組について定期的に一般向けに発信している。		
				3	報告書(環境報告書、CSR報告書等含む)やホームページなどにおける生物多様性保全に関しての記載は、定期的とは言えないが、半数以上の機会において何らかの取組実績等についての情報を一般向けに発信している。		
				2	生物多様性保全に関する情報を、報告書(環境報告書、CSR報告書等含む)、ホームページ、社報、新聞発表などで、一般向けに発信したことがあるか、情報発信を具体的に検討している。		
				1	生物多様性保全に関しての情報発信は検討していない。		
	自社の工場敷地や社有林(借地も含む)などで、主体的に実施している自然保護に関わる活動	37	自社の工場敷地や社有林(借地も含む)などおよびその周辺地域で、主体的に自然保護に関わる活動を行っているか。	5	生物多様性保全が必要と思われる全ての工場敷地、社有地等で、自主的に敷地および周辺地域の生物多様性に関する調査を行い、それに基づいた自然保護活動など生物多様性保全活動を実施している。		
				4	生物多様性保全が必要と思われる工場敷地、社有地等の半数以上で、自主的に敷地および周辺地域において自然保護活動など生物多様性保全活動を実施している。		
3				一部の工場敷地、社有地等で、自主的に敷地および周辺地域において自然保護活動など生物多様性保全活動を実施している。			
2				工場敷地、社有地等における、自然保護活動など生物多様性保全活動を検討している。			
1				工場敷地、社有地等では、自主的な自然保護活動など生物多様性保全活動を実施していない。			
外部機関への協力による自然保護に関わる活動	38	NGO/NPO、地域住民、地方公共団体、研究機関等との連携など主として外部機関への協力による自然保護に関わる活動を行っているか。	5	企業の方針として、全ての拠点、事業所等において、NGO/NPO、地域住民、地方公共団体、研究機関等との連携など主として外部機関への協力による国内外の自然保護に関わる活動に社員派遣、技術提供、資金援助などを定期的に行っている。			
			4	拠点、事業所等の半数以上で、NGO/NPO、地域住民、地方公共団体、研究機関等との連携など主として外部機関への協力による国内外の自然保護に関わる活動に社員派遣、技術提供、資金援助などを行っている。			
			3	一部の拠点、事業所、特定部署等で、NGO/NPO、地域住民、地方公共団体、研究機関等との連携など主として外部機関への協力による国内外の自然保護に関わる活動に社員派遣、技術提供、資金援助、イベント場所の提供などを行っているか、社員のボランティア活動を支援している。			
			2	企業として、外部機関が実施している自然保護活動等と連携した活動を検討しているか、社員のボランティア活動の支援を検討している。			
			1	特に外部機関等の自然保護活動に協力はしていない。			
生物多様性に関する社内外での環境教育	39	生物多様性に関する社内外での環境教育を実施しているか。	5	企業の方針として、全社的に、役員・社員に対する生物多様性保全に関する環境教育プログラムを作成し組織的に環境教育を実施しており、自社独自の教材等を用いた生物多様性に関する社外での出前授業も定期的の実施している。			
			4	拠点、事業所等の半数以上で、役員・社員に対する生物多様性保全に関する環境教育を計画的に実施しており、生物多様性保全や自然保護に関する社外での出前授業等も実施している。			
			3	社外講師による生物多様性保全に関する講演会を開催したり、外部の生物多様性関連の講習会等に役員・社員を参加させるなど、役員・社員の環境教育を実施している。			
			2	社外の生物多様性保全に関わる講演聴講や、生物多様性関連資料購入など、役員・社員の生物多様性保全に関する学習を支援しているか、役員・社員への環境教育プログラムを検討している。			
			1	特に生物多様性保全に関する環境教育等に関する活動は実施していない。			

(※1)本チェックシートの転載・引用においては、引用元を明記すること。(引用元:産業競争力懇談会COCN)

(※2)評価結果の文中にある「必要な」とあるものは、「企業として自主的に行ったほうが良いと判断するもの」である。

ステージ	定義	No.	評価項目	評価結果	回答欄	備考(N/Aの理由や評価条件など)
事業機会	生態系保全・生物多様性に貢献する製品・サービスを提供できる機会	40	生物多様性に関する意思決定をするガバナンス・態勢は整備されているか。	5 生物多様性に関して最高経営者が意思決定に関与する態勢となっている。		
				4 生物多様性に関して代表権を有する取締役が意思決定に関与する態勢となっている。		
				3 生物多様性に関して取締役が意思決定に関与する態勢となっている。		
				2 環境、CSR等の担当部署や個々の事業セクションが生物多様性に関する意思決定を行っている。		
				1 企業経営において生物多様性を経営課題としていない。		
		41	生物多様性に関する方針、目標について外部とのコミュニケーションを実施しているか。	5 生物多様性に関する方針、具体的な目標、取組の成果を外部に公表している。		
				4 生物多様性に関する方針、具体的な目標を外部に開示している。		
				3 生物多様性に関する企業の方針があり、外部に開示している。		
				2 生物多様性に関する企業の方針がある。		
				1 生物多様性に関する企業の方針がない。		
		42	製品・サービスについて、経済的に持続可能な使用・運用を実施しているか(ビジネスとして生物多様性と経済が両立しているか)。	5 生物多様性配慮が経済的に成立できている/できた実績がある(定量的検証が前提)		
				4 生物多様性配慮と経済の両立に向けた施策に取り組んでいる(定量的検証が前提)		
				3 生物多様性配慮の経済的側面を定量化している/した実績がある(費用便益分析の実施)		
				2 生物多様性配慮の経済的側面(費用と便益)を特定・情報収集している。		
				1 実施していない。		
		43	生物多様性に間接的に貢献する製品・サービスを開発し、販売をしているか。	5 全ての製品が貢献している。		
				4 一部の製品が貢献しており、今後拡大する計画である。		
				3 一部の製品が貢献している。		
				2 開発・販売していないが、今後、開発・販売する計画がある。( 年 月頃)		
				1 開発・販売していない。		
44	生物多様性をテーマとした製品・サービスを開発、販売しているか。	5 全ての製品が生物多様性をテーマとしている。				
		4 半数以上の製品が生物多様性をテーマとしている。				
		3 一部の製品が生物多様性をテーマとしている。				
		2 開発・販売していないが、今後、開発・販売する計画がある。( 年 月頃)				
		1 開発・販売していない。				

産業競争力懇談会(COCN)

東京都千代田区丸の内一丁目6番6号 〒100-8280

日本生命丸の内ビル(株式会社日立製作所内)

Tel : 03-4564-2382 Fax : 03-4564-2159

E-mail : cocn.office.aj@hitachi.com

URL : <http://www.cocn.jp/>

(※1)本チェックシートの転載・引用においては、引用元を明記すること。(引用元:産業競争力懇談会COCN)

(※2)評価結果の文中にある「必要な」とあるものは、「企業として自主的に行ったほうが良いと判断するもの」である。